

# 東大和市の神社・お寺

## 昔の中心地は狭山丘陵

東大和市は、多摩湖(村山貯水池)と狭山丘陵、南に続く台地に広がっています。江戸時代まで、中心地は現在の多摩湖となる前の狭山丘陵にありました。丘陵や空堀川周辺に、旧石器、縄文時代の人々が活動した痕跡(石器・土器・住居址)を残します。弥生時代の遺跡は未確認ですが、奈良・平安時代には丘陵の谷々を中心に定住が進みました。市内最古の神社である豊鹿島神社が創建の伝承を残します。平安時代末、鎌倉時代に入ると三光院や円乗院が開かれます。以降、安土桃山、江戸時代を経て多くの神社やお寺が創建されたと伝えられています。

## 神社とお寺は暮らしとともに

江戸時代になると、街道と水路が整備されます。慶長8年(1603年)青梅街道が開通、承応3年(1654年)玉川上水、翌、明暦元年、野火止用水が完成しました。丘陵内と南麓に拠点を置いた芋窪村、奈良橋村、高木村、後ヶ谷村(うしろがやむら)、清水村の村人達は南に広がる原野を農地とするため新田開発へと乗り出しました。

江戸時代も後期になると庶民の観音信仰が盛んになり、天明8年(1788年)に狭山三十三観音霊場が開創されました。また、豊鹿島神社、高木神社で獅子舞の奉納が始まるなど、神社・お寺はこれまで以上に人びとの生活に根ざしたものになりました。

## 多摩湖誕生による大移転

明治時代になると、各村が協力しあい、手を結ぶ流れが生まれ、明治22年(1889年)に高木村村外5ヶ村組合が結成されました。明治45年(1912年)、東京市が村山貯水池の建設を決定し、建設地内にあった三光院、蓮華寺、慶性院、氷川神社と熊野神社(合祀して清水神社)、御霊神社(狭山神社に合祀)が今の場所に移りました。同時に集落も移転し、大正13年(1924年)に上貯水池、昭和2年(1927)に下貯水池が完成、水と緑が調和する東大和市の礎が築かれました。現在は、ベッドタウンにある神社・お寺として東大和の人びとと結びついています。



## 玉湖神社-神様がいない神社-

多摩湖のほとりにある玉湖神社(たまのうみじんじゃ)は、水神を祀る神社でした。

昭和初期に当時の東京府水道局が中心となって建てたものの、戦後、諸般の事情により昭和42年に「御霊遷し」が行われ、神様がいない神社となりました。